

都市再生整備計画だい かいへんこう
(第6回変更)

おおたがわえきしゅうへん
太田川駅周辺地区
(地方都市リノベーション事業)

あいち 愛知県 とうかいし 東海市

平成26年12月

様式1 目標及び計画期間

都道府県名	愛知県	市町村名	東海市	地区名	東海市太田川駅周辺地区(地方都市リノベーション事業)	面積	473	ha
計画期間	平成	22	年度	～	平成	26	年度	
					交付期間	平成	22	年度
							～	平成
							26	年度

目標

◎人と環境にやさしいまちづくりとにぎわい創出に向けた中心市街地の形成

- ・駅前を中心とした、安全・安心で利便性の高い都市拠点の形成
- ・健康で快適に暮らせる、人と環境にやさしい都市の形成
- ・持続可能なにぎわい創出に向けた下地づくり

目標設定の根拠

都市全体のリノベーション方針(都市構造再編を図るため、都市機能の拡散を防止する等の公的不動産のマネジメントも取り組みを含む)

本市では、都市計画道路名古屋半田線の整備を契機に、商業施設等の郊外移転が進み、都市の郊外化が進んだ。そのため、太田川駅を中心とした中心市街地は空洞化が進み、まちとしての魅力が衰退していった。新東名高速道路と東名高速道路を結ぶ伊勢湾岸自動車道の整備や中部国際空港の開港を契機に、太田川駅周辺を知多半島の玄関口・東海市の顔にふさわしい中心市街地とするため、「人と人をつなぎ、交流から生み出すにぎわい溢れるまちづくり」を基本コンセプトとした「東海市中心市街地活性化基本計画」を作成し、土地区画整理事業、連続立体交差事業、市街地再開発事業を三位一体として、にぎわい・魅力あるまちづくりを進めている。こうしたことから、太田川駅を中心とした中心市街地を「中心拠点区域」に位置付け、民間事業者が大学を市民に開かれた施設として整備することによって、市民の生涯学習の機会が増えるとともに、中心市街地の活性化とにぎわいの創出が期待される。また、本大学施設は災害時における市民の避難場所としての役割も有している。

中心拠点区域の公的不動産の活用としては、土地区画整理事業により街区の再整備を行い、商業施設の誘致や住宅供給、市民文化ホールなどの整備を進める。

また、郊外や縁部の既成市街地においては、生活機能の集積を進めるとともに、公的不動産や民間の低未利用地は用途区分や地区計画等により、無秩序な開発を抑制し、都市機能の拡散防止を図る。

まちづくりの経緯及び現況

東海市は、中部新国際空港、第二東名・名神など知多半島の玄関口としてのみならず、中部圏・全国へのゲートウェイとして重要な役割を担う可能性を有している。また、名古屋市にも隣接し、公共交通機関のアクセス及び職住近接型住宅地としての立地条件も良いことから、土地区画整理事業による都市基盤整備が進められ、名古屋圏・知多半島を代表する都市として着実な歩みを重ねてきた。

太田川駅周辺地区は、名鉄常滑線及び河和線の分岐点となる太田川駅を有しており、新しい市の顔となるべく都市拠点の形成が進められている。具体的には、平成31年度を目標年次とした都市整備将来ビジョンを策定し、将来のあるべきまちの姿を実現に向け、社会資本整備総合交付金等の支援策の活用により様々な事業が計画・実施されている。

平成17年度に採択された本地区を含む「東海太田川駅周辺地区 都市再生整備計画」は、将来ビジョンにおける第1期計画と位置づけられ、「にぎわい拠点としての太田川駅周辺のまちづくりと花・水・緑の基幹軸の形成」を目標としてまちづくりが進められ、以下のような事業効果が現れている。

- ・連続立体交差事業により仮線・仮駅舎・仮駅前広場の供用を開始するなど、交通結節点整備が進展した。
- ・土地区画整理事業の実施により幹線道路が整備されるなど、新たな地区の骨格が見え始めた。
- ・狭隘道路の整備や下水道事業の実施により、都市の安全性が向上した。
- ・図書館や大池公園など、整備を実施した公共施設の魅力が向上した。
- ・地区計画や地元主体のまちづくり協定など、地域住民のまちづくりへの機運が高まりつつある。

今後は、将来ビジョンに基づく都市基盤整備の概成と中心市街地の活性化に向けた下地づくりのため、残された課題等を改善するための基盤整備や官民連携による都市機能の集積により、市の顔にふさわしい都市拠点の形成を目指していく。

課題

第1期計画の実施で残された課題と新たに発生した課題は以下のとおりである。

<残された課題>

- ・交通結節点改善について、連続立体交差事業との関連もあり駅広場整備が仮整備に留まっている。
- ・下水道事業について、一部未整備箇所が残っている。
- ・当初予定していた大田公園の整備が未着手である

<新たに発生した課題>

- ・中心市街地活性化への取り組みとして、現在策定が進められている、「中心市街地活性化基本計画(認定計画)」の早期認定を図る。
- ・環境への取組として、「先導的都市環境形成計画」の策定が進められている。
- ・住民において、安全・安心まちづくりや健康増進への関心が高まってきている。
- ・都市機能の拡散防止

将来ビジョン(中長期)

本市の都市整備将来ビジョン(平成20年3月策定)において、太田川駅周辺地区の将来ビジョンは以下のように位置づけられている。

太田川駅周辺地区の将来のあるべき姿(平成31年): 中心市街地として新たな文化を発信する元氣あふれるまち

- (1) 都市機能の複合化による多世代が暮らすことのできるまちづくり
太田川駅周辺を都市拠点と位置づけ、「にぎわい拠点」として商業・福祉・文化・教育等多様な都市機能の複合化・集約化を図るとともに、居住密度の高いまちづくりを展開する。
- (2) 都市拠点外縁部の良好な居住環境の形成
都市拠点及び商業地の外縁部では、住宅を主体としながら店舗等の生活利便施設や事務所等も立地する現在の土地利用を維持する。

本市の都市計画マスタープラン(平成16年3月策定)において、太田川駅周辺地区のまちづくりは主要プロジェクトになっており、『にぎわい拠点となる太田川駅周辺まちづくり』を整備方針として打ち出している。具体的な内容としては以下のとおりである。

本市の都市活力の創出と自立した都市としての発展を目指し、本市の顔となる中心市街地の形成を図るとともに地域の生活向上に役立つ広域的な拠点機能も担う。また、市民の日常生活圏がコンパクトにまとまった都市の構築に向け、誰もが安全・快適に移動できるモデル的なまちづくりを展開するとともに本市の美しい都市景観形成に向けた先導的な役割を担うまちづくりを推進する。

リノベーション事業の計画

都市機能配置の考え方

郊外部については、商業施設や工業・産業・物流系企業など、広域的な道路交通の利便性を前提とした都市機能の集積が進んでおり、広域圏の拠点機能を担うものについては郊外部への配置を行う。
中心拠点区域は、土地区画整理事業により街区の再整備、再開発組合による商業施設の誘致や住宅供給、市民文化ホール等を整備し、商業機能や教育文化機能の集積を進めるとともに、太田川駅の連続立体交差事業により、まちの分断を解消し、駅前広場や都市計画道路等の整備と併せ公共交通機能の強化を図る。

目標を達成する上で必要な「地方都市リノベーション推進施設」「生活拠点施設」の考え方(民間事業者による事業継続の見込みや民間事業に対する行政の支援等を含む)

中心市街地に「中心拠点区域」を設定し、民間事業者が大学を市民に開かれた施設として整備することで、市民の生涯学習の機会を増やすとともに、この中心市街地が東海市のにぎわいや文化の発信拠点となり、地域経済全体にその効果が波及していくことが期待される。

また、併せて同区域内で市街地再開発事業を行い、地域交流センターを整備することで、人と環境にやさしいまちづくりにぎわい創出に向けた中心市街地の形成といった目標の達成に寄与するものとする。

地方都市リノベーションに必要なその他の交付対象事業等

当地区で実施する土地区画整理事業、公園整備事業、再開発事業は、中心拠点区域である太田川駅周辺の中心市街地において、快適で利便性の高い住環境・都市基盤の整備し、まちの魅力を高めるものであり、地方都市リノベーション推進施設と一体的に整備を行うことにより、中心拠点区域の都市機能の集積を促進するとともに、居住者、施設利用者、来街者等によるにぎわいの創出に寄与するものとする。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値
				基準年度	目標年度
太田川駅の乗降客数	人/日	名古屋鉄道株式会社公表による、太田川駅の1日平均の乗降客数	都市拠点へのアクセス性向上や来訪者数の増加の度合いを、太田川駅の乗降客数で評価する。	13,243	13,830
健康であると感じている人の割合	%	本市が毎年1月に実施している「市民生活の現状についてのアンケート」における、該当区域(計画区域を含む小学校区)内に居住する住民の回答	健康増進に留意したまちづくりの効果の度合いを、健康であると感じている人の割合で評価する。	29.9	45.6
環境に配慮してマイカーの利用を工夫している市民の割合	%		環境に配慮したまちづくりの効果の度合いを、住民の環境に対する意識割合で評価する。	45.4	61.0
まちの公園・街路樹などに満足している人の割合	%		人と環境にやさしい都市の形成の効果の度合いを、公園や街路樹といった都市緑化に対する満足度で評価する。	59.0	65.0
大田まちづくりの会の会員数	人	市の所管部署が把握する会員名簿等による会員数	にぎわい創出のための各種施策効果の度合いを、当該地区の住民主体によるまちづくり組織の会員数で評価する。	59	71
駅前イベント広場のイベント参加者数	人/回	駅前イベント広場のイベント1回当たりの参加者数	にぎわい創出のための各種施策効果の度合いを、太田川駅前イベント広場でのイベント参加者数で評価する。	0	2,500

様式2 整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>●駅前を中心とした、安全・安心で利便性の高い都市拠点の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地区画整理事業や連続立体交差事業の継続実施により、これまで進めてきた都市基盤整備の概成を目指す。 ・子育て支援や市民活動等の交流拠点の整備、既存施設の耐震化等により、安全・安心な都市機能の集積を図る。 ・中心市街地への人及び車の流入制向上のため、道路や駐車場・駐輪場の整備、各種バスの拠点改善等により、中心市街地へのアクセス性向上を図る。 	<p>< 基幹事業 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路 ・道路(地方都市リノベーション施設) ・下水道〔東海太田川駅周辺土地区画整理事業区域内〕 ・下水道(地方都市リノベーション施設)〔東海太田川駅周辺土地区画整理事業区域内〕 ・地域生活基盤施設〔駐車場(駅東)整備、太田川駅高架下自転車等駐車場整備〕 ・高次都市施設 〔地域交流センター(市民活動センター)、子育て世代総合支援センター、太田川駅東公共施設連絡通路〕 ・土地区画整理事業〔東海太田川駅周辺地区〕 ・土地区画整理事業(地方都市リノベーション施設)〔東海太田川駅周辺地区〕 ・市街地再開発事業(地方都市リノベーション施設)(東海太田川駅西地区) <p>< 提案事業 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域創造支援事業〔大田児童館耐震補強工事、放置禁止区域等標識等設置事〕 <p>< 関連事業 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・名鉄常滑線・河和線連続立体交差事業 ・東海太田川駅周辺土地区画整理事業 ・道路新設改良 ・温水プール安全・環境対策事業 ・駐車場(駅西)整備事業 ・らんらんバス改善事業 ・東海市浸水対策事業 ・太田川駅西新田地区まちづくり基本調査 ・防犯灯整備事業
<p>●健康で快適に暮らせる、人と環境にやさしい都市の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花・水・緑の基幹軸を構成する点的・線的ネットワークの整備と老朽化した公園の再整備により、市民が健康を享受できる潤いのある空間形成を図る。 ・太陽光発電などの未利用エネルギーの活用や、環境に配慮した都市交通システムの導入、ソフト対策などにより、地球環境の保全を意識したまちづくりを実践する。 	<p>< 基幹事業 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園(地方都市リノベーション施設)〔大田公園〕 ・高質空間形成施設 〔駅前広場(駅東)整備、駅西歩道整備、50m歩道整備、エコプロムナード〕 ・高質空間形成施設(地方都市リノベーション施設)〔駅前広場(駅東)整備〕 <p>< 提案事業 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域創造支援事業〔エコ推進事業、太田川駅前トイレ等整備事業〕 <p>< 関連事業 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大池公園再整備、大田公園整備、御洲浜公園整備、天尾崎公園整備 ・駅東歩道整備 ・上野新川ふるさとの水辺再生事業 ・温水プール安全・環境対策事業 ・エコプロムナード ・いきいき元氣推進事業 ・まちづくり交付金事業評価分析 ・太田川駅西回遊性促進施設整備事業
<p>●持続可能なにぎわい創出に向けた下地づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太田川駅前における再開発事業など、民間主導による中心市街地のビルドアップを推進するとともに、活性化のための民間活動を支援する。 ・公共施設への来訪者増加に繋がるソフト施策や集客交流施策への取組など、中心市街地のにぎわい創出につながる仕掛けづくりを推進する。 ・民間事業者が大学を市民に開かれた施設として整備し、商業施設の誘致や住宅供給、市民文化ホールなど整備を進めることで都市機能の拡散防止を図る。 	<p>< 基幹事業 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高次都市施設 〔地域交流センター(市民活動センター)、子育て世代総合支援センター、〕、〔観光交流センター(観光物産プラザ)〕 ・高次都市施設(地方都市リノベーション施設)〔地域交流センター(太田川駅西地区文化施設整備(駅前再開発ビル内))、地域交流センター(太田川駅西地区地域交流施設整備(駅前再開発ビル内))〕 ・地方都市リノベーション推進施設(日本福祉大学) <p>< 提案事業 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域創造支援事業〔太田川駅前にぎわい創出・PR事業〕 <p>< 関連事業 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高架下利用整備事業 ・ものづくり体験施設整備事業 ・横須賀文化の香るまちづくり事業
<p>事業実施における特記事項</p>	
<p>○中心市街地活性化施策等との連携 現在本市では、「中心市街地の活性化に関する法律」に基づく「東海市中心市街地活性化基本計画」の策定や、国が進める「環境モデル都市」の取組として「先導的環境形成計画」の策定を進めている。そのため、これらの取組との連携により、魅力ある都市拠点の形成と中心市街地の賑わい創出を図る。</p> <p>○民間事業者との連携 民間事業者が大学の整備を進めている。そのため、民間事業者と連携して大学を市民に開かれた施設として整備することで、市民の生涯学習の機会を増やすとともに、中心市街地の活性化とにぎわい創出を図る。</p> <p>○交付期間中の計画の管理 交付期間中は、所管部署で組織する庁内検討会議を定期的開催し、事業の進捗状況の確認や、各種問題点の把握及び対応策、事業内容の見直しの必要性等について議論する。また、事業の進捗状況については、「太田川駅周辺地区まちづくりニュース」や本市のホームページの活用等により、地区住民及び市民へ公表する。</p> <p>○事業終了後の継続的なまちづくり活動 平成20年7月に設立した「大田まちづくりの会」により、「太田川周辺地区街並みづくり協定」が定められるなど、新たな市の顔となる中心市街地の魅力向上に向け、地域住民による取組も進められている。これらの取組を事業完了後も継続・発展させ、まちの魅力を持続していくため、本事業で整備する公園等の清掃や花壇の手入れ等、まちの維持管理活動への参画を促していく。</p>	

